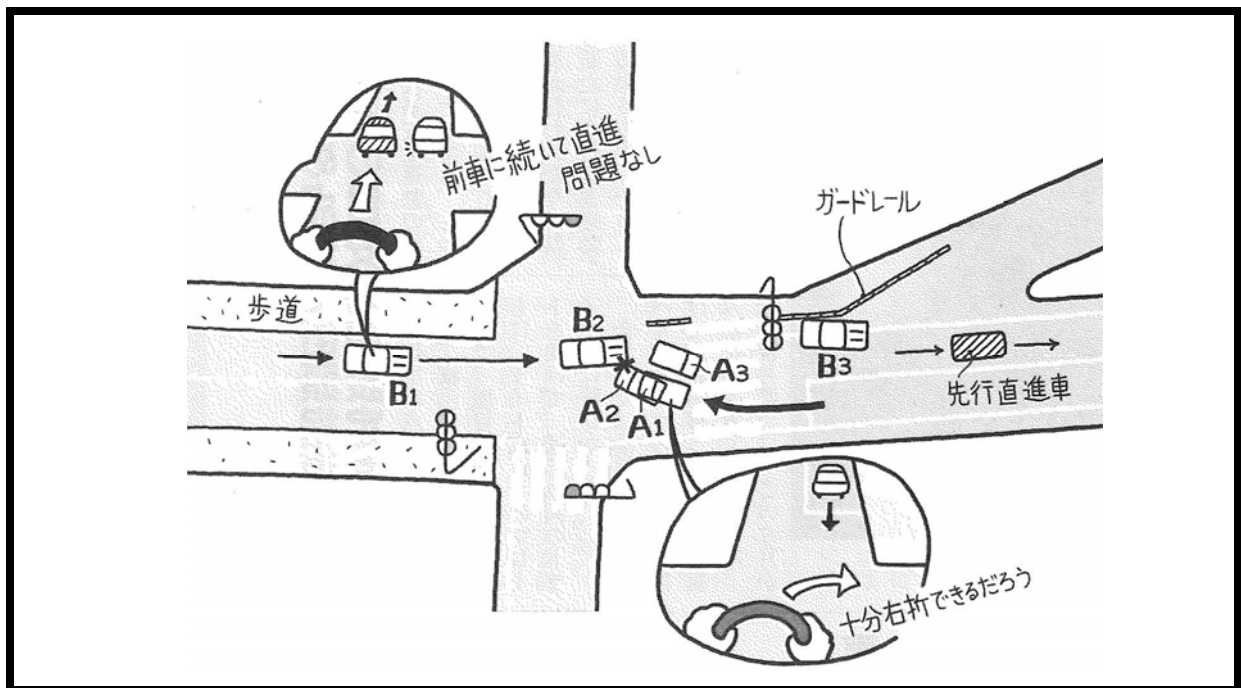


■事故の概況



事故類型：右折直進

発生日時：昼過ぎ

当事者A：軽貨物車 70歳代 男性

当事者B：普通乗用車 10歳代 男性

■ 事故の概要

Aは後席右に友人を乗せ、幅員6mの片側一車線道路を走行しています。Aは信号のある交差点を右折しようと方向指示器を出しながら停止しました。対向車線には直進してくる普通乗用車がいたので、Aはそれが通過するのを待ちました。その車両に続いてB車も直進してきましたが、Aは右折するには十分な感覚があると判断して右折を開始したところ、思ったよりもB車がはやく近づいてきて衝突しました。

Bは前走車に続いて時速約50kmで走行中、信号交差点の手前に差しかったとき、前走車がなんのためらいもなく交差点を直進していったのを見て、特に速度を落とす必要を感じなかったのでそのままの速度で交差点に入ったところ、停止していたA車が突然右折を開始し、Bは回避行動をとることができずに衝突した。

■ 事故から学ぶ

直進してくるB車より早く右折を終了できる、と考えたAの判断ミスが直接の原因です。人間は自分からの距離が同じでも大きなトラックは近い、小さいバイクは遠いと錯覚する傾向があります。今回のB車は比較的コンパクトな普通乗用車だったので、時速約50kmで向かってきているときにAが目測を誤ってしまいました。

一方Bに「もし、右折待ちの停止車両が動き出したらどうするか」という考えが少しでもあれば、交差点の手前で少し速度を落としておくとか、ブレーキに足を乗せてとっさの場合でもブレーキをかけられるように準備をして置くなどの対処もあったのかもしれません。